

昇龍道プロジェクトの 平成28年度活動方針



- 1. 広域観光周遊ルートの形成の推進**
- 2. 戦略的な海外プロモーションの推進**
- 3. 昇龍道ミッション団・昇龍道大使の派遣**
- 4. 交通と観光の連携施策の推進**
- 5. 官公民の参加・連携の一層の強化**
- 6. その他**

■重点6ルートに係る海外プロモーション

- 次に掲げるような重点6ルートにフォーカスした海外プロモーション事業を実施
 - ✓ 山車・からくり街道のコンテンツを活用したDragon Routeプロモーション事業
 - ✓ Nostalgic Routeに係る「古き良き日本」をテーマとした誘客促進事業
 - ✓ Jurassic Routeに係る外国人観光客誘致拡大事業
 - ✓ Ise Pilgrimage Routeに係る富裕層誘客促進事業
 - ✓ Platinum Alpine Routeに係る誘客促進事業
 - ✓ 重点6ルート一体の中国の富裕層個人旅行者向け誘客促進事業 など

■広域共通の観光テーマに係るコンテンツの充実

- 「銘酒」、「山車からくり」に係る既存のコンテンツをブラッシュアップする
- 「昇龍伝説」、「サムライ」、「ものづくり」に係る新たなコンテンツづくりを行う

■外国人の受入環境の整備等の推進

- 地方自治体等からの提案に基づき、
 - ✓ 外国人の受入環境の整備(Wi-Fiの整備、人材育成、多言語のサイン・案内板の整備、ユニバーサルトイレの整備、ムスリム対応等)を推進する
 - ✓ 体験型滞在プログラムの開発・提供、着地型旅行商品の造成・販売促進を実施する

■データの収集・分析によるマーケティングの強化

- DMOに求められるマーケティング機能を念頭に置きつつ、外国人旅行者の移動経路、満足度、リピーター率、認知度等に関するデータの収集・分析を通じて、新たなKPIや戦略の設定等について検討

■重点6ルート以外のモデルルートづくり

- 重点6ルート以外にも、外国人個人旅行者が好みに応じて選択可能な広域周遊モデルルートをいくつかつくる



2. 戦略的な海外プロモーションの推進

■ 運輸局が連携事業主体となる平成29年度の海外プロモーション事業に係る事業計画について、戦略性・首尾一貫性・メリハリのあるものに仕上げるため、次のプロセスにより作りこむ

- 平成28年6月頃、中部運輸局としての平成29年度の海外プロモーション事業の事業計画の編成方針案を作成・提示
- 平成28年8月中に、同編成方針案に沿って、地方自治体、民間企業等との議論を通じて、海外プロモーション案件のアウトラインを作り込み
- 平成28年9月頃、観光庁が提示する方針を踏まえて、中部運輸局では編成方針を固め、北陸信越運輸局ではブロック戦略を定め、平成28年10月頃までに、地方自治体、民間企業等から同編成方針及びブロック戦略に沿った具体的な提案を受付し、中部広域観光推進連絡会議と調整
- 平成28年11月以降、同編成方針に沿った海外プロモーション事業に係る事業計画案を作成し、観光庁やJNTOに説明

■ 昇龍道ミッション団(三田会長、久和副会長)は、8月上旬にベトナムに派遣

＜背景＞ ベトナムは、経済成長著しく、訪日ビザの発給要件の緩和もあって、訪日旅行の気運が高まっている。昇龍道の多くの民間企業もベトナムに進出。

＜関連事業＞ ・ ベトナムの旅行博覧会(ジャパンフェスティバル)への出展 (11月)
・ 旅行会社の招請(9月～12月)

■ 昇龍道実務ミッション団(現地の実務者と顔の見える関係の構築・維持を目的とする)は、次に掲げる都市に、次に掲げる旅行博覧会の前後に派遣

- ・ 上海 (上海世界旅行博覧会(WTF)、5月)
- ・ バンコク (Thai International Travel Fair(TITF)、8月・2月)
- ・ クアラルンプール (MATTA Fair、9月・3月)
- ・ 台北 (台北国際旅行博(ITF)、11月)
- ・ ジャカルタ (Astindo International Travel Fair(AITF)、3月)
- ・ ホーチミン (ジャパンフェスティバル、11月)

■ 昇龍道大使(中野良子様)を中国へ派遣することを検討

■二次交通の充実及び利便性向上

- 「観光交通サミット 2016 in 中部」によって整理された課題を解決していくために必要な取組を実施
- 平成27年12月から翌月にかけて実施した深夜乗合バスの実証運行でわかったこと等を踏まえ、中部国際空港に深夜到着便が就航する場合には、必要な二次交通の確保を図ることを検討
- 外国人旅行者にとって公共交通の利用しやすい環境の整備を図るため、新たなバス路線・企画きっぷ・観光列車の導入、ICカードの有効活用等の可能性を模索

■手ぶら観光の推進

- 平成28年2月から翌月にかけて実施した実証調査でわかったこと等を踏まえ、訪日外国人旅行者向けの手ぶら観光サービスのさらなる充実を図ることを検討

5. 官公民の参加・連携の一層の強化

■ 昇龍道プロジェクト推進協議会の会員数の一層の増加

■ 国の出先機関の参加・連携の一層の強化

- 名古屋国税局・金沢国税局： 昇龍道日本銘酒街道の推進等
- 中部経済産業局： 商店街等におけるインバウンド対応強化(昇龍道×商店街プロジェクト)等(参考1参照)
- 中部地方整備局： 歴史的風致活用国際観光支援、観光拠点としての「道の駅」等(参考2参照)
- 東海農政局： 来ていただくための基盤づくり、食べていただくための体制づくり等(参考3参照) など

■ 地方公共団体の参加・連携の一層の強化

- 県、市町村、観光協会等の昇龍道プロジェクトの具体的な活動(広域観光周遊ルートの形成、海外プロモーション、昇龍道ミッション団、部会・分科会等)への参加・連携を促進
- 県、市町村、観光協会、民間企業等のウェブサイトから昇龍道プロジェクトの多言語ウェブサイトへのリンク貼りを促進 など

■ 民間企業等の参加・連携の一層の強化

- 二次交通の企画きっぷ(昇龍道高速バスきっぷ等)、商業施設が連携した外国人観光客向けガイドブック(名古屋インバウンド実行委員会のNAGOYA NAVIGATOR等)、スマホ用観光アプリ(NAVIGATE SHORYUDO等)、Wi-Fi整備、ホテルの建設のような、民間企業等による自主的な取組が実施しやすい環境づくり など

■ 中部／北陸のブロック別連絡会の活用

- ブロック別連絡会において、訪日外国人を受け入れる上での現状と課題を把握し、平成28年6月の中間取りまとめ、年末の取りまとめに向けて、必要な手立てを迅速に講じる
- なお、ブロック別連絡会において整理した地域における受入環境整備の課題の一部を解決を図るため、訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業(H27補正予算1,019百万円、H28当初予算8,000百万円)の一部を活用

■ その他、昇龍道に対する外国人の理解の増進、訪日外国人の数や消費の増加等につながるあらゆる取組の可能性を模索

(参考1) 中部経済産業局のインバウンド関連取組の例

外国人観光客の買い物需要の取り込みに向けた商業者のみならず幅広い事業者の活動を支援



商店街等におけるインバウンド対応強化 (昇龍道×商店街プロジェクト)

○免税対応の強化

東海・北陸両地域の商店街での免税手続きカウンター設置をサポート。



岐阜県高山市：高山本町三丁目商店街
参加免税店：4店（順次拡大予定）
2016年1月スタート



石川県金沢市：金沢中心商店街武蔵
活性化協議会加盟の5商店街
参加免税店：33店（順次拡大予定）
2016年2月スタート



○観光事業強化

商店街や中心市街地における賑わい創出拠点整備を支援。



愛知県名古屋市：円頓寺商店街
コミュニティカフェレストラン&ゲストハウス整備
2015年4月オープン

外国人向けツアーの実施
空き店舗活用のアンテナショップ整備



石川県金沢市
シェア型複合ホテル整備
2016年3月オープン予定

様々なシェアスペースを活かし、地域プレーヤーとの協働による、北陸の魅力の再発掘や新しいツーリズムを提案。

地域発クールジャパンの推進

○ふるさと名物（ものづくり、食、観光）の開発

地域資源の活用や農林漁業者との連携により行う、商品・サービスの開発や販路開拓を支援。



「加賀料理を提供する施設」を核にしたフードツーリズム事業



瀬戸焼でつくる招き猫を活用したインバウンド観光による販路開拓



金属加工・研磨の高い技術力を活かしたパーツールブランド「BIRDY.」

MORE THAN
FUJUYAMA, SUSU,
SABURU, OSHI
PROJECT

○ふるさと名物の効果的な発信をサポート

The Wonder 500 ^{Wonder} 500

日本が誇るべき優れた地方産品を「ものづくり」「食」「観光体験」のカテゴリで合計500商材選定し、世界に広く伝えていくプロジェクト。地域資源の海外展開を通じた地方への誘客を図る。



昇龍道エリアでは、100超の商材が選定。

海外メディアによる取材ツアー

日本各地のツアーを通して、「海外メディアが見た日本のものづくり」として世界にはばたきつつある「ふるさと名物」と、それらを育んだ豊かな歴史と文化を海外及び日本国内に情報発信。



韓国メディア掲載

NIPPON QUEST

訪日外国人に紹介したい「ふるさと名物」の投稿サイトを開設、13言語で世界へ発信。国内外ユーザーから高い評価を受けた「ふるさと名物」を表彰するなど、PRを支援。



sakefan World

日本酒ラベルを読み取ることにより、日本酒関連情報を発信する多言語アプリを提供。昇龍道エリアでは、5つの蔵元が参画。



○コンテンツの海外展開

日本ブームの創出に伴う訪日観光等の促進を目的に、日本のコンテンツの海外展開を支援。



富山をテーマにした旅番組をローカライズし、6の国・地域での放送を予定。（富山テレビ放送）

(参考2)中部地方整備局のインバウンド関連取組の例

昇龍道エリアにおける訪日外国人受入に向けた取組

観光拠点としての「道の駅」

- 「道の駅」は地域の観光振興を支える重要な拠点として、「観光の案内所」や「無線LAN」など観光案内をさらに充実させる取組を実施中。

外国人観光案内所



外国人対応可能なスタッフが観光や交通情報を提供

「道の駅」SPOT



トップ画面(例)

・JNTO認定
外国人観光案内所
「道の駅」: 10駅
(H28.3月時点)

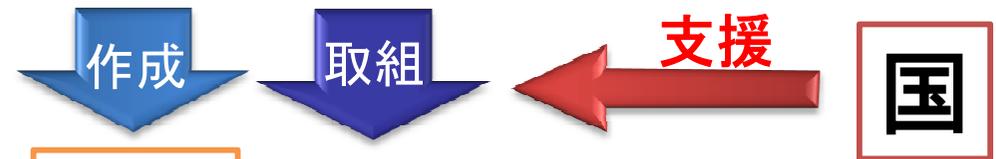
・「道の駅」SPOT 71駅
(H28.3月時点)
・年度内にSSIDを
統一予定

歴史的風致活用国際観光支援

- 地域固有の歴史・文化を国際観光資源としてより有効に活用するため、観光客の受入環境整備に係るソフト・ハード両面の取組に対して総合的に支援。
- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据えて、平成27年度から5年間の支援措置により整備を促進。

協議会

歴まち計画認定都市、有識者、施設管理者、観光関連団体等



整備計画

案内板等の多言語化、外国人向け体験プログラムの開発、人材の育成、観光案内所等の機能向上等

【高山市の例】



博物館外国語ガイド養成

人材の育成

【明和町の例】



イメージ図

観光案内所

観光案内所等の機能向上



(参考3)東海農政局のインバウンド関連取組の例

昇龍道エリアにおける食を通じたインバウンド対応に向けた取組支援

①来ていただくための基盤づくり

地域の食文化資源魅力活用・需要拡大事業 (食と農のアーカイブ構築事業)

オールジャパンで地域の食・食文化の魅力をわかりやすく発信するための仕組みとして現在検討している「食と農の景勝地(仮称)」も踏まえ、以下の取組を支援。

発掘

- 地域の食・食文化等の中から世界に通用する見食を再発見することを支援するために国内外の料理人や有識者等を地域へ派遣

記録

- 地域の食・食文化の魅力やそのストーリーを、国内外の旅行者や次世代へ共有するための映像を制作



発掘

- 地域の魅力・ストーリーを記録した映像を集約化・ブランド化し、国内外へ発信するためのウェブサイト構築

②食べていただくための体制づくり

「食のおもてなし」によるインバウンド対応促進事業

飲食店等の対応促進

- 飲食店等におけるインバウンド対応(多言語対応やムスリム・ベジタリアン対応等)を促進するために必要な情報等を提供する研修の実施
- インバウンド対応を行おうと検討している、あるいはインバウンド対応に着手し始めた飲食店等を対象に、研修を実施し、訪日外国人旅行者の受入体制の裾野を拡大

記録

- インバウンド対応に既に着手している飲食店等がPDCAサイクルを円滑に回し、改善点の気づきや改善策を得るために必要な助言を行うサポート人材を育成するための研修を実施
- サポート人材は自治体、飲食業関連団体、地域商工団体等の職員を対象とし、研修を通じて、地域で気軽に相談できる飲食店のインバウンド対応に関する相談役を育成

農山漁村おみやげ農畜産物販売促進を支援

- 広域観光周遊ルート上の農山漁村地域(主要観光地からの移動時間が概ね1~2時間以内の地域を想定)において、訪日外国人旅行者の受入体制の整備を支援

ソフト対策 (補助率:定額)

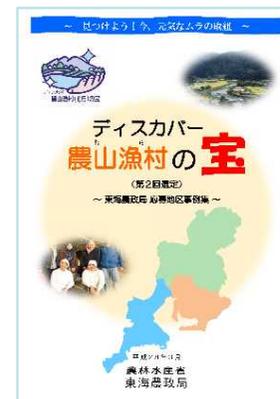
訪日外国人の農林水産物購入を促進する環境構築

ハード対策 (補助率:1/2)

訪日外国人の農林水産物購入促進のために必要な施設改修整備

速報

3月下旬に
発行決定



農林漁業体験などが
できる42地区を
紹介

【事例集】

いつまでも残した
い農村景観100
地区を紹介

【写真集】

東海美の里百選

(美しい農村景観はみんなの宝物)



農林水産省
東海農政局